

琴清苑だより

第11号

発行：社会福祉法人 双葉会 〒198-0212 東京都西多摩郡奥多摩町氷川1099
 介護老人福祉施設 琴清苑 TEL 0428-89-3992 FAX 0428-89-3706
 編集：広報委員会 URL <http://www.futabakai.or.jp>
 e-mail kinseien@futabakai.or.jp

日本財団より 福祉車両が 助成されました!!



大規模修繕が終わった琴清苑の全景（外壁の塗り替え）



新しい高架水槽



新しい暖房用ボイラー

装いも新たに



「あじわひ」

琴清苑生活相談員 佐々木健児

奥多摩の山々も花いっぱいばいの季節が到来しました。氷点下の季節から、暖かい春のまぶしい日射しがあふれる季節になりました。山々は新緑でおおわれ、川は青々として流れておられます。窓を開けると春の匂いがさわやかに流れて来ます。東京の奥座敷、琴清苑で生活なされている利用者の皆様の生活も春の訪れとともに活動的な内容になってきます。お花見、摘み草、散歩など屋外に出かける機会が増えてきます。春の陽気に誘われて皆さんも外出しながら、琴清苑にお寄り下さい。

さて、介護保険が導入されて2年が過ぎました。職員が一丸となって従来と異なる制度に対応した結果として、ケアプランの策定や介護報酬請求事務等について順調に対応がでるようになってまいりました。ハード面の整備が進み、処遇についても振り返る余裕が若干出てまいりました。とにかく効率的な処遇を目指し、競争にも対応できるようにする事を優先してまいりました。その中で利用者との心のつながりを深める時間が少ないといった反省が出てまいりました。

平成14年度は利用される皆様の内に秘めた思いを聞かせていただき、生活に希望がもてるようなふれあいを大切にしていきたいと思えます。利用者、御家族、職員、地域の方々がゆっくりとした時間の中で語り合い、家庭での生活の延長に近づくような空間の活用や、職員の質の向上をはかってまいります。これからは皆様に御指導して頂き、皆様が入所して良かったと思えるような施設にして行きたいと思えます。

琴清苑事業計画

経営方針

今年度は、「介護保険制度下での安定した経営を目標に組織体制、業務内容の見直し、提供サービス内容等の再点検、再整備を継続して推進していく。」

また今年度は、東京都の「特別養護老人ホーム経営支援補助金」の大部分を占める2類の最終年度（14年度・約8千万円）であり、15年度以降は文字通り介護報酬のみでの経営を成り立てていかなくてはならず、補助金に頼らない法人（施設）独自の経営基盤の確立が急務である。職員数についても、厚生省令に定められる最低基準、当施設の人員費、適切なサービス提供を助案した定数となり、現状より減員の形の中で体制作りとど努力に期待しているところでもある。

運ばれる施設を目標に課題は山積しているが、第三者によるサービス評価の実施、苦情処理第三者委員の設置、利用料負担軽減措置事業の実施、サービスの質の向上に向けたユニット化、身体拘束廃止の徹底、ホームページ・広報誌による情報公開の充実等を推進していく。



重点目標

I 介護保険制度下での安定した経営

介護職員としての自覚、パート職員の効率的利用、コスト意識の徹底、業務内容の見直しを検討し、都の経営支援事業の打ち切りとなる平成15年4月以降をシミュレーションし、業務の展開を図る。

II 職員の意識改革と資質の向上

施設内部での研修・勉強会の開催による介護保険制度下での意識改革と介護サービスの質の向上を推進して行く。

III 法人の理念である「心の福祉」の実践とチームワークの強化

人間的なふれあひの中での処遇の実践とプロ意識の徹底。目的達成のための協力的体制の確立。

氷川小学校の訪問



氷川小学校6年生29名のみなさん

12月19日の昼食会に氷川小学校の訪問がありました。利用者にとって、ひ孫ぐらゐの子の歌や踊りに顔をほころばせてました。



慣れた手付きでマジックを披露してくれた島崎久夫看護職員

年忘れ大会

看護職員 島崎久夫

年も押し迫り今年最後の事業『年忘れ大会』が12月25日（火）に開催されました。2001年の最後は『笑い』で終えようとの階の食堂には、多くの利用者がお集まりになりました。利用者の歌や



利用者や職員のデュエット曲、職員のコララスや踊り、仮装・手品・芝居などで、会場一杯に利用者の方々の笑いと拍手が広がりました。利用者の方からは『来年も一緒に歌おうね！』『今度は一緒に何かやってみよう！』という言葉が聴かれ、今年も好評の内に終了しました。



職員の演技も手が込んでいます
左から島崎美雪・島崎賀恵子・島穂子・杉山初子介護職員



利用者全員に氷川保育園の園児よりクリスマスプレゼントを頂きました

キャンドルサービス

12月24日、クリスマスイブの日にキャンドルサービスを行いました。



思わず手を合わせるの、利用者の佐々木栄子様。キャンドルを持つのは、左から小峰スミ子・杉山フジエ介護職員



介護職員 原島憲二

餅つき

介護職員 河村 育子

1月18日、昼食会を兼ねた餅つきが1階食堂にて行われました。餅つきを見ながら、食前酒を一杯！「まあまあの、腰つきだなー」「よいしょ！よいしょ！」「お正月らしいですね」「餅つきを、近くで見たのは初めてです」、利用者の目が輝いていました。

つきたての餅を、きな粉・ごま・あんにかからめ、一口、汁物に入れてまた一口と、食が進んでいきましました。職員の心配をよそに、皆さん無事に楽しく過ごされました。



利用者の皆さんの視線を受け、手が震える原島憲二介護職員

1月2日正月恒例のカルタ大会が二階食堂で行われました。

初めのうちは利用者の皆さん遠慮気味でしたが、カルタが少なくなるにつれ、だんだんとヒートアップ。カルタを取る手に力が入り身を乗り出してカルタ取りを楽しまれていました。カルタを取れない利用者の方がいると周りで見ている職員が取ってしまう場面も。

大きな声で「ハイ」と軽やかにカルタを取る利用者の姿がとても印象的でした。



カルタ取りを楽しまれる利用者の皆さん



節分

機能訓練指導員 河村 広光



平成14年2月3日豆まきが行われ、鬼に仮装した男子職員3名と、年男、年女の利用者、職員、神主による豆まきが始まりました。

各居室ごとに赤鬼、青鬼が廻りましたが、利用者が力強く「福は内、鬼は外」と豆を鬼に向かって蒔かれ、鬼が慌てて逃げる場面もあり、和やかな雰囲気なかで行われました。



鬼に驚く、高橋吉五郎様

ホーム喫茶

毎週日曜日1階食堂にて、ホーム喫茶を行っています。

ておりましたが、4月から、毎週木曜日に変更となりました。ご来苑の際は、ご利用ください。



涅槃会

介護主任 浜中 勉

2月15日は涅槃会です。お釈迦様が涅槃にお入りになった記念の日であります。琴清苑でも涅槃会を行いました。

当日、祭壇には、ロウソク・盛り菓子・果物・お膳・線香立て・お花・湯飲みを2個用意し、祭壇前に椅子8脚と、お線香2本・砂糖湯・白糖・菊の花2本を用意し、利用者8名が向かい合って献香・献花・献茶を行いました。その後、参加者全員で御詠歌をお唱えし、無事涅槃会を終了しました。

私達は、お釈迦様のお涅槃を契機として、死とは何か？お釈迦様の死とは何を意味するのか、そして私達にとって、どのような拘りがあるのか、よく考えて生きるべきではないかと思えます。



献茶を行う、荒井イト様

